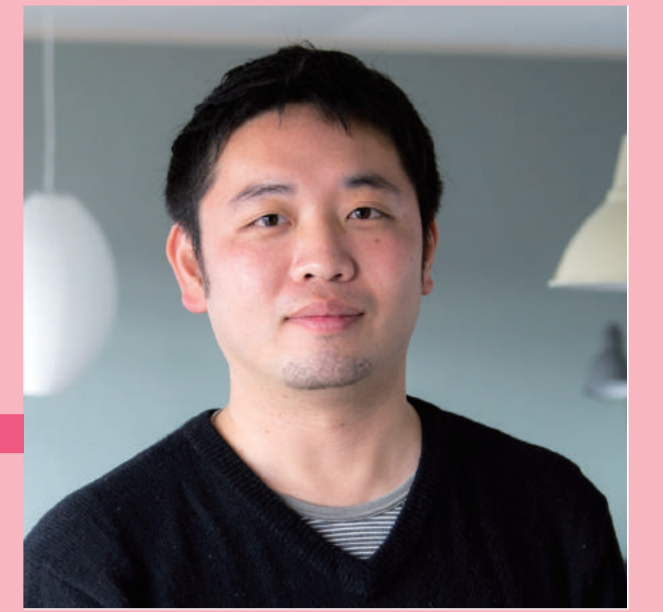


集落とニュータウンが一緒になった三田らしい地域の姿 ～ “地域で暮らす” という価値の再考～



自然・環境マネジメント研究部 環境計画研究グループ

福本 優

地域のつながりを受け継ぐお祭りが残り、共有される。

三田市は、全国的に見ても大きなニュータウンが立地している地域です。その一方で、周辺の農村集落も現在まで元気を維持することが出来ておりニュータウンと農村集落が隣接するという特徴を持った地域です。古くから残る祭りが集落とニュータウンで共有されているのも特徴です。



深田地区に残る神楽の様子（各戸をまわる）



左上下) 集落とニュータウンの神輿が並ぶ神事の様子
右上) ニュータウンの神輿だけが並ぶ秋祭りの様子
右下) 集落とニュータウンの神輿と子どもが一緒に練り歩く

「暮らし方の多様化」と「地域で暮らす価値」

日本のニュータウンの多くは極端な高齢化を目前に控え、これからの社会を担う世代に、如何に地域を引き継ぐかという課題に直面しているのです。ニュータウンは、都市機能が合理的に計画され、土着的な祭りが無いことが一般的です。こうしたニュータウン同士が都心との距離や住宅の価格、行政サービスなどで競争し人口を奪い合うようなニュータウン再生の方法には限界があります。三田では熊野神社や御霊神社で集落とニュータウンが協力し祭りを行っている地域があります。働き方や暮らしが多様化する中、祭りを共有できる等、“その地域らしい暮らしの価値”を考え直すことで、その地域に愛着を持ち暮らすことが出来るより素敵なニュータウンへ再生する手法があると考えています。